

# Economic Indicators

発表日: 2020年3月3日(火)

## 一般会計税収(2020年1月末)

～2019年度税収は3年ぶり減少の公算大～

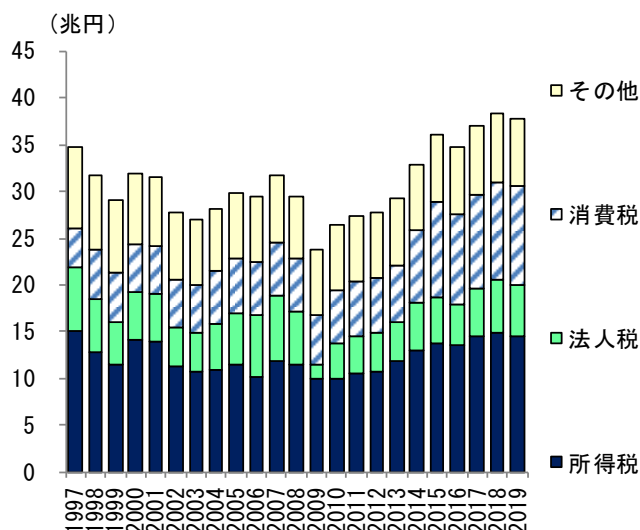
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
副主任エコノミスト 星野 卓也 (TEL: 03-5221-4547)

### 2019年度税収は下振れ濃厚

財務省の公表した2020年1月末までの一般会計税収(累計値)は、37.8兆円と前年同時期の38.4兆円から▲1.5%の減少となった。税目別にみると、所得税が14.5兆円(前年比▲2.6%)、法人税は5.5兆円(同▲1.1%)、消費税は10.5兆円(同+0.5%)となった。2019年10月の消費税引き上げの影響から、消費税は前年比プラスに転じた。所得税・法人税は前年比マイナス圏だが、マイナス幅自体は縮小する方向にある。筆者の作成した季節調整値でも、消費税を除くベースの税収額は下げ止まりつつある。

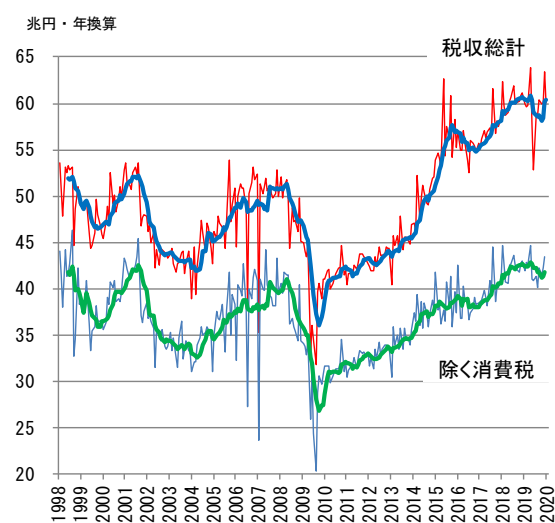
ただし、先行きは厳しいだろう。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国内経済への影響が大きくなっている。インバウンド需要や中国の生産活動停滞に伴う輸出への影響、イベント中止などに伴う外出手控え、株価の急速な下落など、国内経済への影響は多方面に及んでいる。1-3月期の経済活動の悪化は避けがたく、これらを映じて所得税、法人税、消費税の主幹3税を中心に下押し圧力が大きくなる可能性が高いだろう。2019年度の税収は、現在の政府見込み値60.2兆円からも下振れする公算が大きい。2019年度の税収は消費税を10%に引き上げたにもかかわらず、18年度から減少、という形に終わることになるだろう。また、事態が長期化すれば、政府予算案で増加見込みとされている2020年度の税収(63.5兆円)にも影響が出かねない状況だ。

資料1. 税収(2020年1月末時点累計値)



(資料1 出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

資料2. 税収(季節調整値)の推移



(資料2 出所) 同左。季節調整値は筆者。太線は6ヶ月移動平均。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。